

文部科学省委託事業

「ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業」

大阪文化服装学院

第三者評価報告書

第三者評価委員

田山淳朗（ファッションデザイナー）

宮原勝一（文化服装学院専任教授）

小林克也（文化服装学院学務課課長）

吉野たけし（二葉ファッションアカデミー校長）

【総評】

建学の精神・理念である「社会への還元」のもと、「モードの世界標準を PLAN DO」を育成すべき人材像として明確に掲げ、学校のホームページ、パンフレット或いはその他印刷物などで学校内外に公表周知されている。

項目ごとの評価結果は、次ページ以降に詳細を記しているが、大阪文化服装学院は創立70周年を迎え、西日本最大級の服飾学校という自負を持って学校運営を行っている。常に世界のファッションに目を向け、グローバル教育を推進すると共に、地元の企業或いは高校等の厚いサポートを受け、きめ細やかな職業実践教育を行っているファッション専門学校であるといえる。

短期的には消費支出超過となっているものの、無借金経営を軸とした優良な財務内容に支えられ、学校運営がなされている。学生募集に関しては順調であり、これは長年にわたる教育成果が認められている証しでもある。一方で学校独自の奨学金制度を整備、学生の経済的負担軽減をしている。

教育環境については、ファッション業界のあらゆる職種に対応出来るよう各種機材を整備、特にデジタル機器については充実した内容となっている。そしてこれらについて特筆すべきは、在校生が自由自在に自分の手足として効率よく且つ積極的に活用していることである。見せる為の機材ではなく、使う為の機材として活躍している。

教育活動に関しては、学科ごとに育成すべき人材像が明確に定められており、それに則した企業等との連携授業が多岐にわたり高いレベルで展開されている。そして短期を含めたインターンシップが高い確率で就職に直結している点も特筆すべきところである。

又、グローバル教育という点では、イタリアのファッション専門学校との業務提携契約に基づく交換留学制度や教員の派遣などを行っている。

これらの結果として、多くの企業からの求人依頼とともに高い就職率を達成、注目すべきは専門職志望者の大半が希望の職種で就職している点にある。

各種規程は法人で定められており、防災・安全管理等も万全と言える。今後の課題としては、退学率の減少及び情報公開の内容、そして学生数確保の施策として東南アジアの専門学校との連携をどのように図るかと言う点が挙げられる。